

寶松山 西福寺 二十七世 晋山結制

大本山總持寺貫首 石附周行禪師御親修

晋山・法脈会のしおり

令和四年十月二十二日(土)・二十三日(日)・二十四日(月)・二十五日(火)

御授戒御和讃

一、しがなき凡夫ほんぶとおろそかに

思いすごせし 愚おろかさよ

無明むみょうの眠りねむの 夢覚ゆめさめて

尊とうとき身みをば いまぞ知る

二、聖号みなを称とのうる その声に

何なにの曇くもりか あるものぞ

礼拝らいはい恭敬くきやうの そのままが

姿すがたをうつす 鏡かがみなる

三、ひとたび授戒じゅかいの座ざにつけば

ここは蓮萃はちす蔵はな世界その也

浄土じやうどの莊嚴しやうごん 目に満みちて

心の花は 咲さきそろう

四、懇懃ねもごろしめ示しされ たまわりし

ひとのまことの 幸福しあわせよ

承継うけつぎひろめて 世ととも

正ただしき慧命くらし うちたてん

曹洞宗の「本尊さま」「一仏兩祖」



お釈迦さま



太祖瑩山禪師

高祖道元禪師

『晋山結制』とは

晋山結制とは、『晋山』と『結制』という二つの法要を併せて行うことです。まず、『晋山式』とは、新しい住職が正式に寺院に入寺する式のことです。新しく任命された住職を『新命和尚』もしくは『新命方丈』と呼びます。

このたびは西福寺住職として、大泉裕文和尚を迎えます。『晋』という字は『晋む』と読み『山』はお寺と指します。古来、寺の住職は他の寺で修行をしていた僧侶を、寺の信者が招いて住職に就任してもらったことから、晋山式は他所から新しい住職が行脚してきた形式をとります。寺を目指してきた新命和尚が『安下処』塩尻市大門の養福院にて正装を整え、檀信徒たちと寺に向かう『晋山行列』と、寺に入ってからご本尊さまやご開山さま（お寺を開いた初代住職）、歴代住職さまなどに対し、新しくこの寺に住持するにあたって、ご本尊さまやお祖師様へのご挨拶と示すべき仏法の要所や晋山にあたっての所感をしたためた漢詩「法語」を述べ、焼香礼拝する法要が中心となります。

『結制』とは、古来、お釈迦さま在世のインドで、遊行していた僧侶たちが、雨季にあたる三か月間、現在の寺の原形となる『精舎』に集まり、歴代の祖

曹洞宗のご本尊さまは、仏教をお開きになった『お釈迦さま』と、その正伝の仏法を相続しお伝えになり福井県にある大本山永平寺をお開きになった『高祖道元禪師さま』、そして、その教えを日本全国に広め、神奈川県にある大本山總持寺をお開きになった『太祖瑩山禪師さま』のお三方で、特に『一仏兩祖』と尊称いたします。

一仏兩祖を人生の導師として礼拝するとともにお慕い申し上げ、坐禅の教えをよりどころとし、日々の生活を精進することで得る心身のやすらぎが、そのまま「仏の姿」であると自覚することが曹洞宗の教えです。

師によって定められた制度により百日間の修行期間を結んだことから『結制』と言うようになりました。現在、曹洞宗では、この結制を永平寺と總持寺の兩本山をはじめとする「僧堂」という修行道場で、一年に夏冬二回、百日間で修行しますが、一般の寺院では、晋山式に合わせて数日間の日程で修行されるのが一般的です。結制では、結制中心の法要である『上堂』と『首座法戦式』の二つの大法要と、それらに付随する法要を修行いたします。

さらに、このたびの結制では、お釈迦さまからインド・中国の歴代祖師さまがた、高祖道元禪師さま、太祖瑩山禪師さまを経て、曹洞宗に伝わる戒法（お釈迦さまが示された生活に密着するみおしえ）を、特別に拝請申し上げます。宗門で最も厳粛な法要のひとつである「法脈会」を修行いたします。

新命方丈が結制の法要をつとめあげると『和尚』から『大和尚』という宗門最高の僧階へとすすみ、緋色の大衣を被着することが、曹洞宗の管長禪師さまより許されます。通常、住職にとって結制は一生に一度経験するかしないかの行持ですから、まさに一世一代の大行持なのです。

『法脈会』とは

『法脈会』とは、授戒会（『お授戒』とも言いいます）という曹洞宗門の生命とも言うべき重要な法要のひとつです。

お釈迦さまのみ教えでは、私たちひとりひとりにそなわる「美しき種子」それを仏心、仏性と申します。その種子に目覚めて、はぐくみ大きく花を咲かせるようにと、お釈迦さまがお示しになった『戒法』を、高祖道元禪師さま、太祖瑩山禪師さまと、歴代の祖師さまがたが、現在までお伝え下さいました。お授戒は、その戒法を、お授戒の導師である『戒師さま』（このたびの法脈絵では總持寺貫首石附周行禪師猥下がおつとめくださいます。また總持寺貫首禪師猥下を『紫雲台猥下』とも尊称いたします。紫雲台とは總持寺貫首禪師猥下がお住まいになるお部屋のことです。）にお伝え頂き、仏弟子となり、その証しとして『お戒名』と、『お血脈』（お釈迦さま並びに法を伝えた歴代の祖師さまがたすべてのお名前と、仏弟子に入った者のお戒名をひと筋の赤線でないだ大切なお書きもの）を頂戴し、護持するお心をお説きいただく法要です。

お戒名は、一般には逝去後お葬式で授かるものとらえられておりますが、お授戒について生きながらに戒法と共に授かり、護持するのが本来です。お授戒にはその日程や法要の内容により『授戒会』『法脈会』『因脈会』という三種類の形式があります。

授戒会は大本山永平寺・大本山總持寺で毎年四月に修行されているのを代表として、五日間から七日間の日程で修行され、戒法を授かり、お戒名とお血脈を頂戴したのち、新たに仏弟子となったみなさんを、須弥壇というご本尊さまをおまつりする壇にむかえ、仏弟子となったことを戒師さまはじめ多くの僧侶にご証明いただく儀式もつとめる、最も正式な形式のお授戒法要です。

法脈会は、三日間から四日間の日程で、戒師さまから正式に戒法を授かり、お戒名とお血脈を頂戴する儀式を中心として修行される法要です。因脈会は一日か二日間で修行され、戒師さまから戒法を授かり、一般的にはお戒名の記されないお血脈を頂戴する法要です。

このたびの法脈会は、四日間の短い期間ではありますが、坐禅をし、み仏の教えを聞き、繰り返し礼拝し、読経し、行鉢（お食事を頂戴すること）し、詠讃歌を聴いたりお唱えしたりするお授戒のなかでのさまさまな修行（加行といいますが）を無我に行じていく中、不知不識のあいだに今まで想像したことのない素晴らしい心境が開けてくることでしょう。一生の間に幾度ともない、厳肅で、値い難き、有難い修行ができるのです。仏祖正伝菩薩大戒のお血脈を頂戴し、お釈迦さまとまっすぐにつながる命のなかにある尊さを十二分に受けとめられ、「成仏道」なさり、心の花を咲かせ続けることがお授戒の眼目です。この無上の法悦（おしえに出会う喜び）、その大清浄のゆたかなところをもつて日々の生活に精進していくことが出来るのです。



寶松山西福寺法脈会

戒師 大本山總持寺 貫首 石附周行 大禪師 猊下

教授師 塩尻市長興寺 住職 牧野英俊 老師

引請師 西福寺 新命和尚 青山裕文 方丈

説戒師 伊那市常輪寺住職 中野天心老師

直壇長 松本市正隣寺住職 宮澤淳毅老師

お釈迦さまが最初に授戒法要を修行したとき、弟子たちに、みろくぼさつ 弥勒菩薩さまが戒法を詳しく解説なさり、
文殊菩薩さまが修行作法をお説きになったと伝えられることから、お授戒では、その伝統に
お釈迦さまの如く戒法をお伝えくださる『戒師さま』を大導師に、弥勒菩薩さまの如く戒法の心得を懇
切丁寧に教授して下さる『教授師さま』と、文殊菩薩さまの如く『戒弟』かいてい（授戒につくみなさまがた）を、
手を取るが如く導いてくださる『引請師さま』が脇導師となつて修行されます。なお、戒師さま・教授
師さま・引請師さまをあわせて『三師さま』と尊称いたします。

また、三師さまのお授けくださる戒法のお心をより具体的に伺ってくださるのが『説戒師さま』せつかいしです。
そのほかに多くの僧侶が様々なお役について陰日向に、戒弟のみなさまが滞りなく授戒できるようお勤
めくださいますが、とくに戒弟の傍で直接お世話をしてくださる役の僧侶を『直壇』じきだんといい、そのとり
まとめ役が『直壇長さま』じきだんちやうです。

戒弟の心得 (必ずお読みください)

- 一、ありがたいお授戒（法脈会）に参加することのできる御仏縁です。くれぐれも体調を整えておきましよう。
 - 二、出来る限り法要には参加しましょう。
 - 三、正戒弟（三日間参加）は、二十四日の午後の法要（懺悔道場）と二十五日の法要（正授道場）には必ず参加しましょう。
 - 四、食事が無駄にならないよう、食事の出欠を正確に報告しましょう。
 - 五、服装は、男性は上下服にネクタイ、女性は、それに準ずる服装（とくに二十三日晋山式は男女とも慶事礼装）が適当と思われます。
 - 六、持ち物は、数珠、輪袈裟（法脈会記念品）、しおり、参加証です。
 - 七、大切な法要ですが無理なさらぬように、体調の悪いときは係の方に相談してください。
- 以上、法脈会中は直壇というお役の方の指示に従ってください。

令和四年十月二十二日（土曜日）一日目

午前九時 関係御寺院参集
午後一時 教区御寺院参集

午前十一時 迎聖諷經

十一時三十分 啓建歎仏

午後一時三十分 西堂老師御到着

二時 首座入寺式

二時三十分 本則並びに配役行茶

（導師 随行长老師）
法脈会・晋山結制の初めに、お授戒のご本尊さまはじめ三世諸佛を本堂にお迎えする儀式です。

（導師 引請師）
仏名を声明（節をつけた宗門伝来の読み方）によりお唱えし、仏さまの徳を讃たえ、法脈会と晋山結制の始まりにあたり、無事円成を祈念する法要です。啓建とは初日を意味します。

（五鑿三拝）
西堂 岩手県奥州市 大梅拈華山 圓通 正法寺 山主 盛田正孝 大方丈
今回の晋山結制の証明役である西堂老師の御到着に際し、本堂にて宗門最上の形式を以てお迎えをいたします。

首座 箕輪町 明音寺 徒弟 俊瑛 立僧
「結制」百日間の修行をする間、第一の弟子として修行僧たちの先頭にたつて修行するのが「首座和尚」です。この結制で首座を任じられるのは箕輪町 明音寺 徒弟 俊瑛立僧です。
また、首座和尚の補佐役・辨事は下伊那郡松川町 林叟院内の平島 一沙弥（小学二年生）が勤めます。

新命和尚より、明日の法戦式の主題になる『本則』（課題）が発表され、西堂老師より本則についてご教示いただきます。さらに、結制中に就く僧侶の配役が新命和尚より発表され、これから修行される大法要を前に、その労をねぎらってお茶を振る舞う儀式『行茶』が行われます。



入寺式

三時三十分	大祥忌	建夜	(導師 祭林寺 近藤 俊哉 方丈) 建夜とは「逮る夜」という意味があります。法要の前晩のことで、明日修行される西福寺二十五世住職 天涯喬視大和尚 大祥忌(三回忌) 法要に先立ち特に修行される法要です。
了つて	習	儀	明日の重要な結制法要に向けてお役の僧侶により最終確認がなされます。
祝	膳	儀	明日の結制法要に先立ち、お祝いのお膳が振る舞われます。

令和四年十月二十三日(日曜日) 二日目

午前五時半振鈴 暁天 朝課如常
 午前七時 教区関係寺院参集
 午前七時半 随喜御寺院到着

晋山式(住職の正式な就任式)

安下処とは

安下処とは、本来、遠方より行脚して来た新命和尚が旅装を解き、清浄な衣に着替え、身支度を整える一時の宿のことです。
 そしていよいよ新命和尚は、お役の僧侶、檀家役員の方々とともに大行列の出発をいたします。行列は西福寺に向かいます。

午前八時

八時半

新命安下処出發

山門頭到着

山門法語

大播上殿

辞令宣讀

佛殿法語

土地堂法語

開山堂法語

祖堂法語

帰中

退堂

山門にて両班（修行僧の指導と修行道場たる寺院の運営にあたるお役の僧侶で、法要時には本堂に左右に分かれて並ぶ）ほかお役の僧侶が、新命和尚をお出迎えいたします。

新命和尚は、山門に第一歩を標すにあたり、晋山にあたって自らの所感と示すべき仏法を漢詩で述べた「法語」を唱えます。

雷の如く太鼓の轟く中、山門より本堂（法堂）に入堂いたします。

曹洞宗管長猊下よりいただいた住職辞令を、宗務所長老師よりご宣讀いただきます。

新命和尚は、本堂中央で一仏両祖、西福寺ご本尊さまへの法語を述べ三拝いたします。

続いて、本堂右側で、伽藍護持の守護神である大権修理菩薩への法語を述べます。

さらに、本堂奥で西福寺ご開山さま、歴代のご住職さまへの法語を述べ三拝いたします。

最後に、本堂左側で、中国禪宗の初祖である達磨大師さまへの法語を述べ三拝いたします。

新命和尚は、本堂中央に戻りふたたびご本尊さまに向かいます。

（抛室 視察）

新命和尚は退堂し、初めて入る方丈の間（住職の部屋）の確認ならびに、寺の印鑑の受け継ぎをいたします。

午前九時

晋山開堂 (結制上堂)

(新命和尚が初めて須弥壇に登り、仏法を説く【上堂】法要)

九時

巡 版

上 堂 鼓 三 会

空 座 問 訊

新 命 大 播 上 殿

新 命 下 語 登 座

三 香 法 語

1 祝 禱 香

2 報 恩 香

3 檀 越 香

新命和尚の準備が整い、木版が鳴らされます。

説法大問答が始まることを告げる太鼓が打ち出され両班・お役の僧侶の方々が入堂いたします。上堂鼓にあわせて上殿する両班の僧侶が、新命和尚の尊い教えを受けることを願って、空座ながら須弥壇に向かってお迎えの礼拝をいたします。

- 一会 頭首位 (修行の指導にあたる役の僧侶。両班で新命住職の左側に並ぶ)
- 二会 知事位 (寺院の運営にあたる役の僧侶。両班で新命住職の右側に並ぶ)
- 三会 助化師 専使 尊宿上殿

雷の如く太鼓の轟く中、五侍者を従えて新命和尚が入堂いたします。五侍者とは新命和尚の身の回りの世話をする五人の僧侶のことです。

新命和尚は、これから登る須弥壇(法座)に向かい短い法語を述べ、須弥壇上に登ります。

新命和尚は、報恩供養のための次の三つのお香を焚き、法語を述べます。

『二仏両祖』のお釈迦さま、高祖道元禪師さま、太祖瑩山禪師さまに報恩のお香を焚き、仏法の興隆と世界の平安を祈ります。

西福寺ご開山さま、歴代のご住職さまに報恩のお香を焚き、広大なるお徳を讃えます。

西福寺檀信徒のご先祖さまに供養のお香を焚き、各家の末永い繁栄を祈ります。

嗣承香	五侍者問訊	両序問訊	代衆請法	白槌	垂語	問答	堤綱・自叙・謝語・拈則・結座	白槌	下座南面
-----	-------	------	------	----	----	----	----------------	----	------

新命和尚は、三香とは別に、特に懷中にあたためていたお香を取り出し、仏法を伝えてくださつた本師である先代住職（東堂）大峰文規大和尚さまに向けて、報恩の特別なお香を焚き、これまでの導きへの感謝とこれからも東堂として新命方丈を支えてくださることを願う法語を述べます。

五侍者の方々が、これから始まる大問答を仏法でお示し下さいと、須弥壇上の新命和尚にお願いする礼拝（問訊）をいたします。

両班の頭首位・知事位の方々が、順にお願いの問訊をいたします。

最後に五侍者筆頭の焼香侍者が「新命和尚さま、仏法をお説きください」というお願いのお香を大衆（結制中の役に就く総ての僧侶・修行僧）に代わって焚き、お拝をいたします。

西堂さまが、槌砧をならし、上堂の大問答開始を宣言なさいます。

新命和尚は、修行僧に向けて問答を促します。

僧侶たちが、新命和尚に対し仏法における疑問を投げかけ、それに対して新命和尚が回答し仏法を説きます。

新命和尚は、問答の後、所感を述べ、諸役の方々への謝辞・慰労を述べます。

西堂さまが、ふたたび力強く槌砧を鳴らし、大問答と説法の無事円成を証明なさいます。

新命和尚は、須弥壇から下り、僧侶の方々に対面して立ちます。なお、寺院の本堂では実際の方角とは関わりなく、須弥壇のある方向が北と決められていますので、須弥壇を背にする立ち方を『南面』といいます。

祝辞 祝電

新命謝辞

祝拜

退堂

晋山結制に際し各方面より祝辞を賜ります。

大本山永平寺御專使

大本山總持寺御專使

曹洞宗長野県第二宗務所長

曹洞宗長野県第二宗務所第二教区長

総代 長 小林 定勝 様

新命和尚が、晋山上堂無事円成の感謝の言葉を述べます。

維那和尚の発声でお祝いの三拜をいたします。三拜の後、大きな声で一同が

「おめでとうございます」とお祝いの言葉を発します。

新命和尚と両班・お役の僧侶の方々が退堂いたします。

午前十時

首座法戦式

(首座和尚が、新命和尚さまより与えられた本則(課題)に対し、法問を戦わせる法要)

十時 巡版

殿鐘 三會

住持大播上殿

上香普同三拜

般若心経

新命和尚の準備が整い、木版が鳴らされます。

法要開始の合図の殿鐘が鳴り、両班・お役の僧侶が上殿いたします。

大小を波のように繰り返して打ち鳴らす太鼓の中、首座、辨事、書記をはじめ両班の僧侶先導のもと、新命和尚が入堂いたします。

法要開始の三拜です。一同合掌し、ともに三拜をいたします。

「摩訶般若波羅密多心経」をお唱えいたします。読経中、焼香侍者は「本則」の書かれた「従容録」という、いわば禪の教科書を首座和尚に渡します。

了おわって

記 念 撮 影

- ① 寺院関係
- ② 檀信徒関係
- ③ 首座関係

午前十一時

檀信徒総回向

導師 堂頭（新命和尚）

（檀信徒各家のご先祖さまに対し、心を込めた追善供養法要がつとめられます。）

退 <small>たい</small>	祝 <small>しゅく</small>	祝 <small>しゅく</small>	普 <small>ふ</small>	普 <small>ふ</small>	祝 <small>しゅく</small>	謝 <small>しゃ</small>	法 <small>ほう</small>	拈 <small>ねん</small>	拳 <small>こ</small>
		電 <small>でん</small>	同 <small>どう</small>	回 <small>え</small>				竹 <small>しつ</small>	
		披 <small>ひ</small>	三 <small>さん</small>						
堂 <small>どう</small>	拜 <small>はい</small>	露 <small>ろう</small>	拜 <small>はい</small>	向 <small>こう</small>	語 <small>ご</small>	語 <small>ご</small>	問 <small>もん</small>	篋 <small>べい</small>	則 <small>そく</small>

首座和尚は「従容録」を奉じ、この結制の主題である本則（従容録第二則 達磨廓然）を大声で挙唱いたします。

新命和尚に代わり説法をして良いという印である「竹篋」を預けられた首座和尚は、問答開始の言葉を挙唱いたします。

首座和尚と修行僧の間で、本則を主題にした法問が激しく交わされます。

法問が終了し、首座和尚が、お礼と謙遜の言葉を述べます。

首座和尚は、お役の僧侶の方々からお祝いのお言葉を賜ります。

維那和尚が、法戦の功徳を回らし仏道の成就を願う回向を唱えます。

法要終了の三拜です。一同合掌し、ともに三拜いたします。

維那和尚の発声でお祝いの三拜をいたします。三拜の後、大きな声で一同が「おめでとうございます」とお祝いの言葉を発します。

新命和尚と両班・お役の僧侶の方々退堂いたします。

午後一時

戒弟受付

正戒弟の皆さまは「21頁の正戒弟受付所」にて受付を済ませてください。

(注) 参加証を忘れないように提示してください。
その際に翌日の昼食の出欠を確認いたします。

一時三十分

直壇口宣

法脈会中に気をつけることをお伝えしますので、必ずお聞きください。

二時

戒師大禪師猊下御到着

戒師 曹洞宗大本山總持寺貫首 石附周行大禪師猊下ご到着に際し、最上のお出迎えをいたします。

三師初相見の拝

戒師大禪師猊下ならびに、教授師 牧野英俊 老師・引請師新命和尚に初めてご対面のお拝をいたします。

三時

二十五世大祥忌

(御親香)
西福寺二十五世住職 天涯喬視大和尚 大祥忌(三回忌)法要を、御親香(大禪師猊下おんみ

ずから御導師くださること)にて修行いたします。

四時

説戒

これから戒師大禪師猊下から授かる戒法について、説戒師さまが三師さま方に代わり、詳しくお話しくださいます。

礼仏

説戒を頂戴するにあたり、『三千仏名経』という過去・現在・未来(三世)に出現するそれぞれ一千ずつの諸仏の尊名が記されたお経を声明で読み上げます。僧侶が一仏をお唱えするのにつき、戒弟の皆さんは『南無三世諸仏』とお唱えしながら立ち上がって正式な礼拝一拝することを繰り返す行をつとめます。お釈迦さまはじめ諸仏祖師さまがたが、身口意の三業をもって法をお伝えくださったのと同様、戒弟の皆さん方も三業【身業：合掌・五体投地の礼拝で仏足を頂く帰依のあらわれ】【口業：『南無三世諸仏』と仏名を唱える】【意業：心を込めて三世諸仏を念じる】をもって礼拝するとき、みずからの三業が清浄となり、そこに仏の三業が現れるもので、授戒において最も大切な加行のひとつです。

五時

壇上礼・佛祖礼

壇上礼

壇上礼は、お授戒に降臨こうりんなさって戒弟の皆さまに授戒を受けさせていただきますご本尊さまがたへの報恩の礼拝で、戒師大禅師猊下はじめお役の僧侶と戒弟の皆さまが揃って礼拝申し上げます。一拜ずつ心を込めて行いましょう。

諸仏の尊名をお唱えすることに直壇の鳴らす鐘にあわせ立って礼拝いたします。

佛祖礼

仏祖礼は、お授戒のご本尊さまがた、お釈迦さまから法を承け継いだ二代目迦葉尊者かしょうそんじやさまから伝えられ、中国禅宗初祖達磨大師を経て高祖道元禅師さま、太祖瑩山禅師さま、大禅師猊下の御本師さまと、とぎれることなく法をお伝えくださった歴代のお祖師さまがたへの報恩の礼拝です。

礼仏と同様、僧侶がお祖師さまのご尊名をお唱えしたの続き、『南無三世諸仏』とお声に出しながら立って礼拝を繰り返します。

明日以降の注意事項をお伝えしますので、必ずお聞きください。

法脈会一日目の日程は終了ですが、期間中はご自宅も大切な加行の場ですので、戒師さまはじめ教授師さま・引請師さま・説戒師さまのお示しにかなうよう、おこたらずお過ごしください。お気をつけてお帰りください。

配役僧侶の夕食並びに明日の準備

直壇口宣
戒弟散会
寺院薬石

十月二十四日（月曜日）三日目

午前五時半 振鈴 暁天 朝課如常
 午前七時 教区関係寺院参集

午前七時三十分 戒弟受付

七時五十分 直壇口宣

八時 戒源師供養諷經

八時三十分 説教

九時三十分 亡戒諷經

十時 戒壇上供諷經

十時三十分 午時供養

正戒弟は、前日と同じく「21頁の正戒弟受付所」で受付いたします。（参加証をご持参ください。）
 なお、翌日の昼食の確認をいたします。
 本日の法脈会中に気をつけることをお伝えしますので、必ずお聞きください。

（導師 補導師）
 戒弟の皆さんに戒法をお授けくださる戒師大禪師猥下に、戒をお伝えになった大禪師猥下の御本師 實参賢道大和尚さま（戒源師さま）への報恩供養の法要です。

説教師さまより、三師さまのお示しと説戒師さまの説戒をさらにかみ砕き、戒弟の皆さんがうけとめやすくなる、ご法話をいただきます。

（導師 直壇長老師）
 亡くなられた方に、お授戒の功德をご供養するための送り授戒です。お申し込みの方は参列し、お焼香をしてください。

（導師 補導師）
 お授戒のご本尊さま、三世諸仏に御供養申し上げる法要です。

（御親香）
 皆さまに点心飯台（昼食）を御供養くださった施主家のご先祖に対する追善法要です。
 大禪師猥下御親修にて修行されます。

十一時

説

戒

十二時

戒

弟

飯

台

午後一時三十分

直

壇

口

宣

引き続き

順

列

巡

堂

二時三十分

説

戒

四時

懺

悔

道

場

各寺

寮院

打合せ

薬石

戒直

弟壇

散口

会宣

これから戒師大禪師猊下から授かる戒法について、説戒師さまが三師さま方に代わり、詳しくお話しくださいます。

飯台（食事）をいただくことも修行の一つです。どのような由来を以てこの食事を頂くか、みずからが食事をいただくに合うつとめをしてきたかなどのお唱えごとをして、自覚を持って食事をいただきます。

法脈会中に気をつけることをお伝えしますので、必ずお聞きください。

戒弟は、戒師大禪師猊下から血脈を授かる際に、大切なお血脈が誤って他人の手に渡らぬよう厳格に順番を定めて列を作ります。そのための馴らしを兼ねて、諸仏諸菩薩への巡礼としてお釈迦さまのご尊名を唱えながら、行列を作って堂内を廻ります。

三日目も、説戒師さまより戒法についてお話を頂きます。

戒弟が法脈会について以来いまままで、礼拝見仏聞法し、ひたすらに加行して参りました。その間に見つめた、生まれて以来すべての行いを、いよいよ、ひとりひとり戒師大禪師猊下の間近に進み、「小罪無量」（しょうざいむりょう）と唱えて懺悔します（対首懺悔といえます）。

この儀式を修行しなければ翌日、お血脈をいただくことができません。必ず参加してください。なお、懺悔道場中はこの『しおり』や『経本』を持つことは出来ませんのでご注意ください。

明日以降の法脈会中に気をつけることをお伝えしますので、必ずお聞きください。

法脈会二日目の日程は終了ですが、期間中はご自宅も大切な加行の場ですので、戒師さまはじめ教授師さま・引請師さま・説戒師さまのお示しにかなうよう、おこたらずお過ごしください。お氣をつけてお帰りください。

配役僧侶の夕食並びに明日の準備

十月二十五日（火曜日） 四日目

午前五時半振鈴 暁天 朝課如常

了つて 戒源師供養諷經

満散嘆仏

午前七時 教区関係寺院参集

午前七時三十分 戒弟受付

七時五十分 直壇口宣

八時 満散大施食会

八時四十分 開山歴住報恩諷經

九時四十分 三師請拝式

前日と同じく「21頁の正戒弟受付所」で受付いたします。（参加証をご持参ください。）

本日の法脈会中に気をつけることをお伝えしますので、必ずお聞きください。

（導師 東堂老師）

戒弟の法脈会での修行の功德を、あまねく一切に回向する「大施食会」を厳修いたします。

大施食会は宗門最上の供養法要で、仏縁に恵まれなかつた餓鬼などの精霊も含めた

三界万霊すなわち一切の精霊に対し、お釈迦さまがお示し下さつた施食法により、

分け隔てのない万霊供養をいたします。

この大施食会の功德を回らすことによつて、檀信徒各家のご先祖への追善をいたします。

前住職が導師を勤めます。

（御親香）

当山のご開山さま、歴代のご住職さま方への報恩の法要です。大禪師猊下御親修にて修行されます。

戒弟の代表四人が焼香し、お釈迦さまから嫡々相承し戒師大禪師猊下までつたえられた

戒法を、お授けくださるよう、また、教授師さま・引請師さまの二師に、滞りなく授かるためお導き下さるようお願い申し上げます。

四時	送 聖 諷 經	引き続き	正 授 道 場	二時	教 授 道 場	午後一時	説 戒	十二時	戒 弟 飯 台	引き続き	順 列 巡 堂	十時三十分	午 時 供 養	十時	戒 壇 上 供 諷 經
----	------------------	------	------------------	----	------------------	------	--------	-----	------------------	------	------------------	-------	------------------	----	----------------------------

(導師 補導師)
お授戒のご本尊さま、三世諸仏に御供養申し上げる法要です。

(御親香)
皆さまに点心飯台(昼食)を御供養くださった施主家のご先祖に対する追善法要です。
大禪師猊下御親修にて修行されます。

戒弟は、戒師大禪師猊下から血脈を授かる際に、大切なお血脈が誤って他人の手に渡らぬよう厳格に順番を定めて列を作ります。いよいよ教授道場・正授道場へ進むにあたり、諸仏諸菩薩への巡礼としてお釈迦さまのご尊名を唱えながら、行列を作って堂内を廻ります。

説戒師さまより戒法についてお話を頂きます。

戒師大禪師猊下より、お釈迦さまから相承された「戒法」とそれをささずかった証しの

「お血脈」を授けて頂くに先だつて、教授師さまにより、道元禪師さまがお示しになった「教授戒文」をお授け頂きます。

いよいよ、戒師大禪師猊下より戒法を授かる法要です。戒法を伝える「正授戒文」のなかで、お唱えごとがありますので、教授師さま、引請師さま、説戒師さまのお示しをよく受けとめ、直壇口宣で伝えられたとおり、お唱えごとを唱和します。最後に、戒弟おひとりおひとりに「お血脈」を授けてくださいます。

(導師 直壇長老師)
法脈会・晋山結制の無事円成にあたり、お授戒のご本尊さま・三世諸佛をお見送り申し上げる法要です。

四時三十分	乞 <small>こう</small> 暇 <small>か</small> 謝 <small>じゃ</small> 拜 <small>はい</small>	五時	大 <small>だい</small> 開 <small>かい</small> 静 <small>じよう</small>	戒 <small>かい</small> 師 <small>し</small> 御 <small>ご</small> 発 <small>はつ</small> 錫 <small>しやく</small>	四 <small>し</small> 堂 <small>どう</small> 頭 <small>ちよう</small> 挨 <small>あい</small> 拶 <small>さつ</small> 衆 <small>しゆ</small> 雲 <small>うん</small> 散 <small>さん</small>
<p>修行道場を下りることを「乞暇」といいます。戒弟が法脈会を無事修行し終わり、寺を後にするにあたり、戒師大禪師猊下、教授師さま、引請師さまに報恩感謝の礼拝をするとともに、戒師猊下からお言葉を賜ります。</p> <p>最後に、法脈会を陰日向に支えてくださったその他のお役の僧侶と、ともに修行をし支えあつた戒弟同士、報恩感謝の礼拝をいたします。</p> <p>法脈会・晋山結制の終了の合図に、鐘・木魚・太鼓の仏具はもちろんのこと、鍋・やかん・しゃもじ等、寺中の音の出るものを鳴らして、無事円成を祝します。</p> <p>戒師大禪師猊下は、錫杖を手に、次に法を求める人々のところを目指し、西福寺をご出発なさいます。お姿が見えなくなるまで、合掌礼拝でお見送りいたします。</p> <p>新命和尚から御挨拶がございます。</p> <p>無事、晋山結制と法脈会の御修行をつとめあげられ、まことにおめでとうございます。禅の修行僧のことを「雲水」と呼びます。雲水とは「行雲流水」つまり迷いとらわれず自由闊達に生きるさまです。雲の如く水の如く縁によって出会った場で修行することが仏道です。</p> <p>これからはご自宅を中心に、大禪師猊下にお伝え頂いた法にかなう、あらたな生活の日々をお送りください。</p>					

お血脈の保管

お仏壇の中（引き出しの中ではなく、ご先祖のお位牌のそばの見えるところ）に、大切に納めて、自身の仏心として、日々、礼拝供養してください。また、その旨をご家族の方にお伝えしておいてください。

亡戒血脈はお墓にお納めください。
日常生活の心がまえ

一、法脈会中の修行を思い起こして、善根（善い行い）の上に更に善根を積み重ね、徳を重ねられるよう精進してください。

一、仏様のお弟子として恥ずかしくない生活、一層の信心を心がけてください。
一、いつも合掌の心、他人を敬う心をひろげ家庭の中は勿論の事、ひろく近隣、縁者、地域の人にもこの心を及ぼすことの出来るよう心がけてください。

道元禪師様は

「吾等が行持ぎやうぢによりて諸仏の行持見成げんじやうし諸仏の大道通達だいたうつうだつするなり。」
と説かれました。正しい生き方を教えられた今、自分の行いがそのまま仏様と一体になることをきも臆に銘じて心を正しましょう。

寶松山 西福寺 二十七世 晋山結制 法脈会 差定

十月二十二日 (土曜日) 一日目

午前十一時 迎聖諷經
 十一時三十分 啓建歎仏
 午後一時三十分 西堂老師御到着
 二時 首座入寺式
 二時三十分 本則並びに配役行茶
 三時三十分 二十五世大祥忌速夜了つて
 習儀
 祝膳
 六時

十月二十三日 (日曜日) 二日目

午前八時 安下処出發
 八時三十分 晋山式
 九時 晋山開堂
 十時 首座法戦式
 十一時 檀信徒総回向
 晋山式記念撮影
 西堂老師御見送り
 戒弟受付
 午後一時 戒弟受付
 一時三十分 直壇口宣

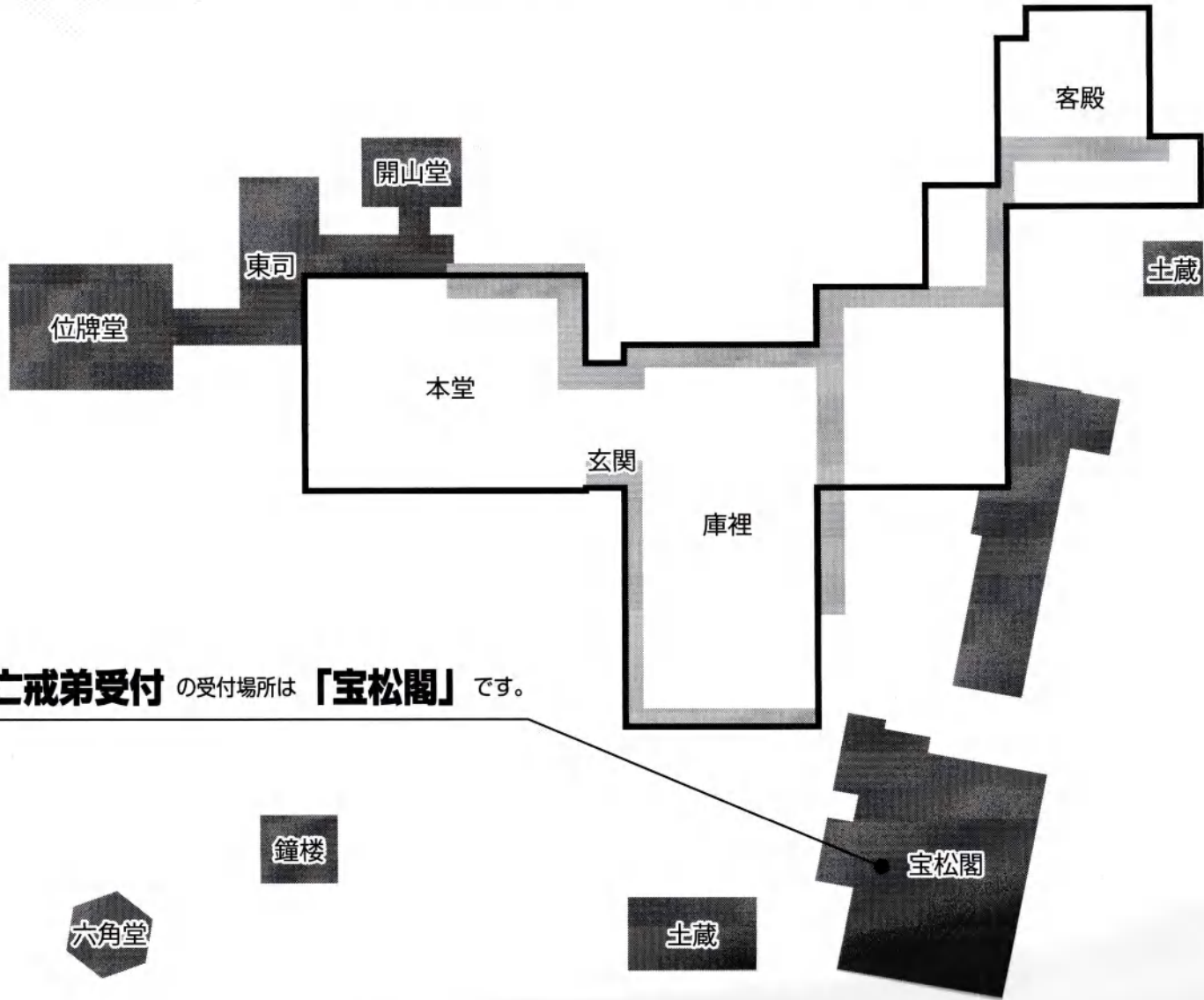
十月二十四日 (月曜日) 三日目

二時 戒師大禪師猊下御到着
 三師初相見の拜
 法脈会記念撮影
 二十五世大祥忌
 三時 説戒
 四時 壇上礼・佛祖礼
 直壇口宣
 戒弟散会
 寺院薬石
 各寮打ち合わせ
 五時
 午前七時三十分 戒弟受付
 七時五十分 直壇口宣
 八時 戒源師供養諷經
 八時三十分 説教
 九時三十分 亡戒諷經
 十時 戒壇上供諷經
 十時三十分 午時供養
 十一時 説戒
 十二時 戒弟飯台
 午後一時三十分 直壇口宣 順列巡堂
 二時三十分 説戒

十月二十五日 (火曜日) 四日

四時 懺悔道場
 直壇口宣
 戒弟散会
 寺院薬石
 各寮打ち合わせ
 午前七時三十分 戒弟受付
 七時五十分 直壇口宣
 八時 満散大施食会
 八時四十分 開山歴住報恩諷經
 九時四十分 三師請拜式
 十時 戒壇上供諷經
 十時三十分 午時供養
 引き続き 順列巡堂
 十二時 戒弟飯台
 午後一時 説戒
 二時 教授道場
 引き続き 正授道場
 四時 送聖諷經
 四時三十分 乞暇謝拜
 五時 大開静
 戒師御発錫
 堂頭挨拶
 四衆雲散

建物配置図



正戒弟・亡戒弟受付の受付場所は「宝松閣」です。



寶松山 西福寺

長野県塩尻市下西条 748 ｲ1